

## 「龍谷の森」里山保全の会例会 「車いすで見える里山のための熊谷川道の整備」

江南 和幸

「車いすで見える里山のための熊谷川道の整備」

2006年10月28日

2005年、龍谷大学社会学部の学生サークル「わかかの会」のメンバーに依頼されて、龍谷の森の東側の熊谷川道を車いすで通り、車いすでも里山の四季を眺めることが出来ないか調査した。熊谷川道は、瀬田キャンパス造成のときに作られた資材運搬の取り付け道路となったため、舗装がされ一応車いすが通れる状態にあった。しかし、キャンパ



午前10時作業開始：生い茂るハチクに最初は悪戦苦闘



午後1時作業終了：明るくなりすっきり見通しがよくなった谷道の入り口。これならば車いすでも安心して通ることが出来る。

ス造後すでに16年以上を経過し、新しく芽を吹いた実生のアカマツ、コナラ、またハチクなどが生い茂り、道路を暗く覆い、車いすの低位置からの眺望を著しく損ない、さらにキャンパス植栽から逃げ出してはびこるアイビーやヌルデ、コナラなどの下枝が車や人の通行を妨げるようになっていた。そこで、龍谷の森里山保全の会の特別例会として、熊谷川道の道にまで張り出した草木の整理を行った。キャンパス直下の谷の源流から砂防ダム位置までの道に張り出す草木を、会員15人と応援の学生が熱心に整理した結果、写真に見られる通り、道はすっきり明るさを取り戻し、人と車いすが安全に通行できる状態に一歩近づいた。今後も整備を続けて車いすでも、里山の四季の風景が楽しめる環境を作りたいと願うものである。